

「家畜衛生フォーラム 2017」の開催について

主催：日本家畜衛生学会
共催：(一財) 生物科学安全研究所
後援：農林水産省

テーマ：「抗菌剤に頼らない新しい家畜疾病の制御法 ーモデルとしての難治性・慢性疾病克服のための研究ー」

日時及び場所

日時：平成 29 年 12 月 15 日（金）13:00～17:30

場所：Meiji Seika ファルマ（株）本社講堂

東京都中央区京橋 2-4-16

（東京メトロ銀座線・京橋駅 5 番出口徒歩 1 分

JR 東京駅・八重洲南口徒歩 5 分）

薬剤耐性菌は医療・獣医療現場で増加しており、薬剤耐性菌対策は国際的に大きな課題となっている。本フォーラムでは、日本における抗菌剤使用量の状況および削減対策について、また、抗菌剤に頼らない家畜の感染疾病の制御法に関する研究、特に、抗菌剤が有効でない難治性・慢性疾病に関する研究および防除対策のために抗菌剤を使用してきた家畜疾病への応用や抗菌剤削減への利用の可能性について紹介して頂く。

プログラム

座長 杉浦勝明（東京大学）、大石弘司（動物医薬品検査所）

- ①イントロダクション 日本及び欧州における薬剤耐性対策状況 ー動向調査から普及啓発までー 木島まゆみ（動物医薬品検査所）
- ②生理活性タンパク質の応用研究からのアプローチー牛乳房炎の予防と治療への可能性 非特異性生理活性物質：ラクトフェリンー 河合一洋（麻布大学）
- ③免疫研究からのアプローチ ー牛の免疫応答を利用した難治性疾病の新規制御法開発ー 今内 覚（北海道大学）
- ④免疫遺伝学研究によるアプローチー主要組織適合抗原 MHC をマーカーとした新しい牛乳房炎および牛白血病制圧戦略についてー 間 陽子（理化学研究所）
- ⑤抗病性育種研究からのアプローチー豚の抗病性育種によってマイコプラズマなどの病気にかからない豚を作るー 鈴木啓一（東北大学）

第 87 回大会の開催について 10:00～12:00 同会場にて(発表 10 分、質疑応答 3 分)

1. ビタミン K 類がウシの免疫担当細胞の機能発現に及ぼす影響（西 航司ら：酪農大）
2. 豚胸膜肺炎ワクチン免疫血清中の抗体価測定のための ELISA 法の検討（手島香保ら：日生研）
3. 子牛のマイコプラズマ関節炎罹患牛における免疫学的応答性（津田尚樹ら：酪農大）
4. 競走用馬の感染性とみられる皮膚炎からの細菌・真菌の分離同定と薬剤感受性調査（牛屋重人ら：うしや競走馬クリニック）
5. 養豚農家および養豚管理獣医師の抗菌剤使用低減意志に影響する意識要因の分析（磯村れんら：東大）
6. 乳清および鶏卵由来タンパク質酵素分解物の食肉加工における有効利用（梅津敬多朗ら：麻布大）
7. 野生獣肉に関する研究ージビエの生理活性機能についてー（金子桜子ら：麻布大）
8. 北海道で発生した高病原性鳥インフルエンザ（H5N6 亜型）発症鶏の病性鑑定成績と他症例との比較（中菌将友ら：北海道十勝家保）
9. 牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）ワクチン製造のための増殖効率の高い細胞株の選択（中川健斗ら：農工大）

